

評価細目の第三者評価結果

(保育所、地域型保育事業)

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

	第三者評価結果	コメント
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	a	<p>保育理念「①健康、安全などの生活に必要な基礎的な習慣を養い生命保持及び情緒の安定を図る、②人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てると共に自主・協調の態度を養い道徳性の芽生えを培う、③保育生活の中で、様々な体験を通し豊かな感性を育て創造力・思考力の芽生えを培う」、保育目標「①健康で明るく、元気に遊ぶ子、②愛する心と思いやりを持つ子、③自分の思いや考えを伝え、行動できる子、④豊かな感性と創造性を伸ばす子、⑤学ぶことの楽しさを知り、意欲的に調べる子、⑥食から成長や旬を知り、感謝の心を持つ子、⑦外国語を学び、世界に羽ばたける子」、保育方針「愛に満ち溢れた居心地の良い環境の中で元気良く遊んで学べる時間を創り、挑戦する気持ちや多くの達成感を経験することで将来、何事にも負けない強い心と体づくりの援助をする」をwebサイトやパンフレット、「子ども・子育て支援情報公表システム」等に掲載している。</p> <p>入園希望者に対する見学対応の際や、入園説明会の際等にも、保育理念や保育方針、保育目標等に関する説明を行っている。</p>

I-2 経営状況の把握

	第三者評価結果	コメント
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	a	<p>I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p>子どもの年齢ごとに、毎月の園児数を把握する取り組みを行っている（現在は、全てのクラスが定員に達している）。運営法人は、社会福祉連携推進法人「さくらグループ」に帰属し、当該グループを通じて経営環境に関する情報収集や情報分析等を行っている。認定されている社会福祉連携推進法人は、2025年度3月現在全国で30法人となっている（2022年度3月14日付社援基発0314第1号に基づき、認定所轄庁から情報提供のあった法人）。</p>
I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	<p>（経営）課題を明確にするため、年度末に保育職員による「みらいステップグループ自己評価」を実施している。当該自己評価では、①保育所の運営管理（9項目）、②保育の内容（13項目）、③保育の計画及び評価（5項目）、④健康及び安全-子どもの健康管理（5項目）、⑤健康及び安全-環境及び衛生管理（2項目）、⑥健康及び安全-事故防止及び安全管理（4項目）、健康及び安全-食育の推進（3項目）、⑦保護者に対する支援（4項目）、⑧職員の資質向上-所長の責務（5項目）、⑨職員の資質向上-職員の研修等（3項目）について3段階による評価を行っている。加えて、保育実践における保育の気づきと振り返りを行い、今後の課題と取り組みの策定、今後の目標の策定等を行っている。</p>

I-3 事業計画の策定

	第三者評価結果	コメント
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	b	<p>I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p>配置基準（保育を担当する職員の配置基準）に対して1人多い職員を配置することで、保育サービスの質を高めるという長期計画を策定している。長期計画の実現に向け、①人件費予算を拡充する制度（処遇改善費、雇用対策費、1歳児担当雇用費、保育体制強化費等）活用を行う、②全国の保育士養成施設との関係構築を推進する取り組みを行っている。</p> <p>現在は、0歳児が3人の基準に対して3人の担当職員を、1歳児が2人の基準に対して2人の担当職員を、2歳児が2人の基準に対して2人の担当職員を、3歳児が1人の基準に対して1人の担当職員を、4歳児が1人の基準に対して1人の担当職員を、5歳児が1人の基準に対して1人の担当職員を配置している。加えて、フリーの職員を4人、加配の職員を1人配置している。</p> <p>自己評価における当該項目については、38.5%が“a”、53.8%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>

I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	<p>配置基準を超える職員配置を行う長期計画に基づき、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を策定している。当該計画においては、社会的責任、人権尊重、説明責任、情報保護、苦情処理と解決、年齢別保育目標、年齢ごとの養護（生命の維持、情緒の安定）、年齢ごとの教育（健康、人間関係、環境、言語、表現）、年齢ごとの食育（食を営む力の基礎）、健康管理、環境・衛生管理、安全対策と事故防止、保護者への支援、地域等への支援、地域行事への参加、研修計画、小学校との連携、自己評価等の取り組み計画を合議的に策定している。</p> <p>自己評価における当該項目については、30.8%が“a”、61.5%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	<p>「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」に対する評価を行うと共に、当該評価結果に基づく事業報告書を作成している。前年度は、園の流れが定まってきた、職員は行事に対して積極的に動けるようになった、保育の質的向上を図るために園内研修を増やした、年長児の午睡に関する意見があった等を報告（評価）している。また、毎月実施した園内研修の実績や、年間を通じて実施した行事の実績等も併せて報告している。</p> <p>当該事業報告書は、職員にも周知する取り組みを行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、38.5%が“a”、46.1%が“b”、15.4%が“c”と回答している。</p>
I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	b	<p>「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」における、年齢別保育目標、年齢ごとの養護、年齢ごとの教育及び保育、年齢ごとの食育、健康支援、環境・衛生管理、災害・安全対策・事故防止、保護者・地域等への支援については、年度当初に周知する取り組みを行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、38.5%が“a”、46.1%が“b”、15.4%が“c”と回答している。</p>

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

第三者評価結果	コメント
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	<p>サービスの質的向上を図るため、年度末に「みらいステップグループ自己評価」を実施し、①子どもの発達を理解し、保育指針に示す“生命の保持”に関する援助を適切に行っているか、②子どもの発達を理解し、保育指針に示す“情緒の安定”に関する援助を適切に行っているか、③子どもの発達を理解し、保育指針に示す“健康”を踏まえた保育を提供しているか、④子どもの発達を理解し、保育指針に示す“人間関係”を踏まえた保育を提供しているか、⑤子どもの発達を理解し、保育指針に示す“環境”を踏まえた保育を提供しているか、⑥子どもの発達を理解し、保育指針に示す“言葉”を踏まえた保育を提供しているか、⑦子どもの発達を理解し、保育指針に示す“表現”を踏まえた保育を提供しているか、⑧保育指針に示す“保育に関わる全般的な配慮事項”を踏まえた保育を提供しているか、⑨乳児に対し、保育指針に示す“乳児保育に関わる配慮事項”を踏まえた保育を提供しているか、⑩1～2歳児に対し、保育指針に示す“3歳未満児の保育に関わる配慮事項”を踏まえた保育を提供しているか、⑪3～5歳児に対し、保育指針に示す“3歳以上児の保育に関わる配慮事項”を踏まえた保育を提供しているか、⑫障害のある子どもに対し、保育指針にある“障害のある子どもの保育”を踏まえた保育を提供しているか、⑬子どもの生活や発達の連續性を踏まえ、就学に向けて、保育指針にある“小学校との連携”を図っているかを評価している。</p> <p>自己評価における当該項目については、76.9%が“a”、23.1%が“b”と回答している。</p>
I-4-(1)-② 評価結果に基づき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	<p>「みらいステップグループ自己評価」に基づき、次年度の「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を策定している。</p> <p>自己評価における当該項目については、53.8%が“a”、46.2%が“b”と回答している。</p>

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

第三者評価結果		コメント
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
II-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	<p>園長は、毎年、年度当初に自らの役割や責任、運営方針等を全職員に表明し、長期計画（配置基準に対して1人多い職員を配置し、保育サービスの質を高める）の実現に向けた取り組み計画（職員の入件費予算を拡充するため、各種制度の活用と活用できる制度を拡大する取り組み、計画的に新卒者を採用する取り組み等）を周知している。</p> <p>自己評価における当該項目については、61.5%が“a”、30.8%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>
II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	<p>「服務規則」において、命令や規則に違反し業務上の指示、計画を無視することや、怠慢、風紀や秩序を乱すこと等を禁じている。また、園内研修において、「服務規則」に対する理解を深める取り組みを行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、61.5%が“a”、38.5%が“b”と回答している。</p>
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
II-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	<p>園長は、長期計画（配置基準に対して1人多い職員を配置し、保育サービスの質を高める）の実現に向けた取り組み（職員の入件費予算を拡充するための制度活用や、新卒者を採用する取り組みの拡充等）を主導している。また、保育理念や保育方針、保育目標に基づく保育サービスの提供においても指導的役割を果たしている。</p> <p>また、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」における社会的責任（延長保育・休日保育のニーズへの対応、乳児保育を含む3歳未満児の受け入れ推進）、人権尊重（子どもを一人の人として尊重し、自己肯定感を持てるように努める）、説明責任（地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に保育の内容を適切に説明する）、情報保護（正当な理由なく利用者又はその家族の情報を漏らすことのないよう、職員に対し定期的な研修を行う）、苦情処理・解決（苦情対応窓口、担当者、苦情解決責任者、第三者委員の設置を行うと共に、苦情解決体制を全職員・利用者に周知する）、健康管理、環境・衛生管理、安全対策と事故防止、保護者への支援、地域等への支援、地域行事への参加、研修計画、小学校との連携、自己評価等については、園長が取り組みを主導している。</p> <p>自己評価における当該項目については、53.8%が“a”、46.2%が“b”と回答している。</p>
II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a	<p>経営改善の取り組みについては、節電や節水、紙類の削減等、コスト管理を主導している。業務の実効性を高める取り組みについては、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」に基づく保育の実施、適切な職員配置、施設整備の計画的な実行、研修計画の着実な実施等を主導している。</p> <p>自己評価における当該項目については、61.5%が“a”、38.5%が“b”と回答している。</p>

II-2 福祉人材の確保・育成

第三者評価結果		コメント
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	<p>人材確保のためのパンフレットを作成している。パンフレットには、保育理念、保育目標、保育方針、特徴（英語・中国語教室、運動教室・スイミング、知育の教室、音楽教室等）、法人グループ（社会福祉法人みらい高翔会、株式会社みらいステップ）が運営する事業所（9事業所）を見学するバスツアー、保育士体験、Q&A、先輩からのメッセージ、それぞれの事業所における園長からのPRポイント、研修（内定者研修、園内研修、外部研修等）、保育士の出身校、法人グループに就職して良いと共うところ（アンケート結果）、福利厚生等に関するものを掲載している。</p>
II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a	<p>年度末に職員による「みらいステップグループ自己評価」を実施すると共に、当該自己評価に基づく個別面談（年2回）を実施している。</p> <p>また、職責等（主任、副主任、Sリーダー、リーダー、一般）に応じた「能力行動評価シート」に基づく評価（責任感、倫理・規律性、企画判断力、指導力、積極性、コミュニケーション力、クラス運営、協調性、職務遂行力等の評価）を年2回行っている。</p>

II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	<p>正職員、非常勤職員共に、勤務実績を勤務計画と共に常時把握している。また、有給休暇の取得促進のため、有給休暇の取得日数や残日数（前年度からの繰り越し日数を含む）を個別に把握している。</p> <p>働きやすい職場づくりの一環として、勤務時間中に保育士が一時的に子どもから離れ、各種の業務に取り組む時間（ノンコンタクトタイム）を交代で確保する（60分間）取り組みを行っている。子どもから離れる時間の確保により、事務作業に集中したり、職員間で情報交換したり、保育を振り返ったりする時間が確保できる体制を構築している。当該取り組みは、不適切保育を防止する目的も含まれている。</p> <p>自己評価における当該項目については、76.9%が“a”、7.7%が“b”、15.4%が“c”と回答している。</p>
--	---	--

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

II-2-(3)-① 職員一人一人の育成に向けた取組を行っている。	a	<p>「みらいステップグループ自己評価」や「能力行動評価シート」に基づく評価を踏まえた個別面談を実施している。当該面談を通じて、一人ひとりの希望や意向の把握、目標を主体的に設定する取り組みも併せて行っている。新入職員に対しては、主任が一定期間、個別の指導（OJT）を行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、69.2%が“a”、23.1%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>
-----------------------------------	---	---

II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	<p>①より良い保育を目指し、向上心を持って、創意工夫をようとする方、②忍耐力、協調性があり、子ども達のために前向きに行動できる方を、求める人物像としている。</p> <p>園内、外部を含め、マネジメント（主任）、乳児保育、幼児保育、紙芝居、運動遊び、造形遊び、自然体験、音楽遊び、発達障害、危機管理、乳幼児突然死（SIDS）、虐待防止、食物アレルギー、事故予防、保育指針、感染症、嘔吐処理、救急対応、コミュニケーション力、保護者対応、自己啓発、個人情報取り扱い等に関する研修受講を計画的に行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、69.2%が“a”、23.1%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>
--	---	---

II-2-(3)-③ 職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。	a	<p>在職年数や職責、経験、希望等に応じて、園内研修や外部研修の受講機会を設けている。また、実践的な研修（OJT）を必要に応じて個別に行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、46.2%が“a”、46.2%が“b”、7.6%が“c”と回答している。</p>
-------------------------------------	---	---

II-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関する専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	<p>「実習生受け入れマニュアル」を整備している。当該マニュアルでは、実習指導のポイント（実習のねらいに基づく指導を行う、子どもへの声掛けや関わりに関する指導を行う、学ぶ姿勢に関する指導を行う、読み聞かせや伴奏等の保育技術に関する指導を行う、観察の視点や記録に関する指導を行う等）や、日誌添削のポイント（誤字脱字、記録内容の意図を明確にする、表現力、保育目的との整合性を図る等に関する助言や指導方法）を明示している。</p> <p>自己評価における当該項目については、53.8%が“a”、38.5%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>
--	---	--

II-3 運営の透明性の確保

第三者評価結果	コメント
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	<p>a webサイトを通じて、理事長のメッセージ（子ども達が心から「生まれてきて良かった」「生んでくれてありがとう」と感謝の気持ちと自己肯定感に満ち溢れた毎日を過ごし、保護者の皆さんの育児の不安や悩みを解消し、「この園に預けて良かった」「子育てて楽しい幸せ」と感じていただけに、保育に関わる全ての職員が笑顔で働き、保育に集中できる環境を整備することが私たちの使命でもあります。子ども達の明るい未来と一緒に創る職員を大切にする会社で私たちはあります（と考えています）、特徴（お子様の「未来にはばたく力」を育てる保育園）、保育理念、保育目標、保育方針、保育園の1日、年間スケジュール、子ども家庭庭の訪問（「さくらグループ」における活動）、乳児院大規模修繕のクラウドファンディングの募集（他財団への支援）、決算報告等を発信している。</p> <p>当法人が加盟する「さくらグループ」は、社会福祉法人9法人と株式会社4社で構成する「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」に基づくグループで、福祉サービス事業者間の連携・協働を図る取り組みを行っている。</p>
II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	<p>a 経営や運営等の透明性を高めるため、webサイトを通じた情報発信、通信物の提供、連絡帳の活用等と共に、保護者も参加する行事（親子遠足、夏祭り、運動会、生活発表会、保護者会、保育参観等）を実施している。</p> <p>利用者調査の回答において、「SNSを利用しているので、中の様子がわかりやすいです」「おむつのサブスクやアプリでの連絡帳記入など、いろいろと改善してくれています」「サブスクやアプリを活用し、園及び保護者の負担を減らしてくれていると感じます」等の意見もある。</p>

II-4 地域との交流、地域貢献

第三者評価結果	コメント
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	
II-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	<p>b 介護保険法に定める指定事業所と交流する取り組みを行っている。当該取り組みでは、子どもと利用者が手作りのプレゼントを交換する取り組みや、子どもが披露する歌や遊戲を観賞する取り組み等を年2回行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、38.5%が“a”、38.5%が“b”、23.0%が“c”と回答している。</p>
II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	<p>b さいたま市の中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」（中学生のキャリア教育、次世代を担う人材育成、地域で子どもを育てることをコンセプトとした事業）において、地域の中学生を受け入れる体制を構築している。</p> <p>自己評価における当該項目については、23.1%が“a”、53.8%が“b”、23.1%が“c”と回答している。</p>
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	
II-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	<p>b 発達が気になる子どもについて、さいたま市（子ども未来局・子育て未来部・保育課）と連携（保育コーディネーターとの連携）した取り組みを必要に応じて随時行っている。さらに、児童発達支援センターとの情報交換や同センターから助言を得る取り組みも行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、38.5%が“a”、53.8%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	<p>b 卒園する子どもが、小学校や特別支援学校へ円滑に移行することができるよう、さいたま市が実施する「保育者小学校等体験研修」（保育士が小学校や特別支援学校の教育活動を補助し、小学校等との連携を図る研修）に参加する取り組みを行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、46.2%が“a”、46.2%が“b”、7.6%が“c”と回答している。</p>
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。	<p>b 小規模保育事業所（「みらいステップ南浦和園」）の卒園児（3歳児）を受け入れる連携を図っている。小規模保育事業所は、0歳から2歳までの子どもが利用する保育施設で、子ども1人ひとりの発達過程等に応じたきめ細かな保育を行うが、3歳以後の保育施設を円滑に確保することが課題となる。そのため、地域の小規模保育事業所と連携し、卒園児の受け入れを行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、61.5%が“a”、30.8%が“b”、7.7%が“c”と回答している。</p>

III 適切な福祉サービスの実施

III-1 利用者本位の福祉サービス

第三者評価結果	コメント
III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	<p>a 保育理念において、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てると共に自主・協調の態度を養い道徳性の芽生えを培うと謳っている。当該保育理念をwebサイトやパンフレット、入園希望者に対する見学対応の際、入園説明会の際等を通じて、一般に幅広く発信している。</p> <p>また、「保育所等における人権擁護のためのセルフチェックリスト」(全国保育士会)を職員に配布し、子どもを尊重することへの理解と自己チェックを促す取り組みを行っている。</p> <p>さらに、園内研修においても、子どもに対して性差をつけないこと、年齢に応じた呼称、身体に関わる個人差の表現、体罰の禁止等に関する理解を深める取り組みを行っている。</p>
III-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	<p>a 「個人情報保護方針」に基づき、子どもや保護者の個人情報等を適切に取り扱う取り組みを行っている。</p> <p>着替えの支援を行う場合は、子どもの羞恥心やプライバシーに配慮する取り組みを行っている。おねしょをした子どもへの対応においては、羞恥心や自尊心に配慮する取り組みを行っている。</p> <p>また、保育園における子どもの様子を撮影(写真)すること(販売を含む)に対して、保護者の同意を得る取り組みも行っている。</p>
III-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	<p>a 利用希望者向けの資料を作成している。当該資料には、沿革、運営方針、保育理念、保育目標、特色(知育、徳育、体育、食育、才育)、定員、開園日・開園時間・休園日、延長保育、一日の流れ(年齢ごと)、玄関のセキュリティー、持ち物、保育園で着用する衣服、献立、アレルギー対応食、離乳食、体調、レッスン(英語・中国語、リトミック、鍵盤ハーモニカ等)、費用(自己負担分)、駐車場、土曜日保育、授業、布団、保護者が参加する行事、使用済みオムツ、慣らし保育、避難訓練、外遊び、職員数、カップ・水筒、ICT化等に関することを掲載している。</p>
III-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更に当たり利用者等に分かりやすく説明している。	<p>a 保育サービスの提供開始にあたり、重要事項説明書に関する説明を行い、説明内容に関する同意を得る取り組みを行っている。重要事項説明書には、設置者、目的及び運営方針、概要(年齢ごとの定員、自己評価、第三者評価、職員研修、嘱託医、安全対策等)、連携施設、年齢ごとの年間保育計画と1日の主なスケジュール、食事の提供、職員体制、保育の提供を行う日及び時間、休所日、保護者から受領する費用の種類(理由や金額を含む)、認可保育事業の利用の開始・終了に関する事項、利用に当たっての留意事項、緊急時における対応方法、非常災害対策、虐待の防止のための措置に関する事項、保護者会、運営委員会、健康診断、賠償責任保険、保育内容に関する相談・苦情窓口の設置等に関することを掲載している。</p>
III-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等に当たり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	<p>a 転園する場合は保護者の同意に基づき、必要な情報を転園先に提供する支援を行っている。退園後も遊びに来たり相談ができる体制を整備し、保育の継続性を確保する取り組みを行っている。卒園時は、子どもが入学する予定の小学校に「保育所保育要録」を提出している。</p>
III-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。	<p>a 親子遠足、夏祭り、運動会、生活発表会についての保護者アンケートを実施している(行事実施後)。また、「保護者アンケート実施準備委員会」を設置し、2025年度末より定期的な保護者アンケートを実施する準備を行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、69.2%が“a”、30.8%が“b”と回答している。</p>
III-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	<p>a 重要事項説明書に、相談・苦情受付担当者と連絡先、相談・苦情解決責任者と連絡先、第三者委員(2名)の氏名と連絡先を明示している。</p> <p>また、「福祉サービス苦情解決制度のご案内」に、どのような苦情を申し出ることができるのか、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員(2名)の氏名と連絡先等を明示している。</p>
III-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	

III-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	<p>保護者との個別面談を年2回実施している。個別面談に先立ち、要望等を予め把握して当該面談の際に回答する取り組みも行っている。また、行事実施後のアンケートを通じて、個別の意見や要望等を把握する取り組みも行っている。</p> <p>利用者調査における「子育てに関する気がかりな点や悩み等について、気軽に個別相談ができますか」については、70.0%が「はい」、22.5%が「どちらともいえない」、5.0%が「いいえ」、2.5%が「わからない」と回答している。「園長や職員に対して不満や要望を気軽に言うことができますか」については、55.0%が「はい」、22.5%が「どちらともいえない」、10.0%が「いいえ」、12.5%が「わからない」と回答している。</p>
III-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	<p>保護者からの相談や意見に対しては、その内容に応じて迅速に対応する取り組みを行っている。相談や意見に対しては、基本的にクラス担任が対応にあたり、必要に応じて園長や主任保育士も加わっている。昼礼において、相談や意見への共通認識を図ると共に、対応の検討を併せて行っている。また、相談者のプライバシーに配慮し、相談内容や今後の対応等を秘匿する取り組みを行っている。</p> <p>利用者調査における「不満や要望には的確に応えてくれますか」については、52.5%が「はい」、12.5%が「どちらともいえない」、7.5%が「いいえ」、27.5%が「わからない」と回答している。</p>
III-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
III-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	<p>「事故防止委員会」を設置し、事故を防止する取り組みを組織的に行っている。「危機管理マニュアル」（事故防止、災害対策、防犯対策、衛生管理、感染症、食中毒、食物アレルギー、児童虐待、情報セキュリティー等に関するもの）や「乳幼児突然死症候群に関するマニュアル」、「熱性痙攣に関するマニュアル」を作成すると共に、これらのマニュアルの内容を理解するための研修を実施している。AEDを常備すると共に、AEDの操作に関する研修も実施している。</p> <p>また、インシデントやアクシデントを記録し、事故防止のために活用する取り組みを行っている。不審者の侵入を防止するため、防犯カメラの設置や電子錠の設置も行っている。子どもが隠れそうな場所（屋内と屋外共）を選定し、施錠したり塞ぐ等の措置を講じている。定められた項目に基づき遊具の点検や園庭の点検、保育室の点検を定期的に行っている。</p>
III-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	<p>感染症の予防や感染症の対応（発熱時の対応、下痢の時の対応、嘔吐のときの対応）、感染症対策の実施体制（子どもの年齢と予防接種の状況、抗菌薬の使用状況、環境衛生、食品管理、職員の衛生管理と予防接種等に関すること等）に関する園内研修を実施している。加えて、衛生管理・排泄物や嘔吐時の適切な処理方法に関する園内研修や、食中毒に関する園内研修も毎年定期的に実施している。</p> <p>感染症の発生に伴う業務継続計画（BCP）を策定している。</p>
III-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	<p>地震発生時、避難経路や場所等、火災発生時にに関する研修を定期的に実施している。「危機管理マニュアル」において、地震の発生に備える取り組みと、地震が発生した場合の対応手順（役割分担を含む）、火災の発生に備える取り組みと、火災が発生した場合の対応手順、風水害や台風、落雷が発生した場合の対応手順等を明示している。法令に基づき、避難訓練を毎月実施している（地震や火災、風水害等を想定した避難訓練を区別している）。</p> <p>自然災害の発生に伴う業務継続計画（BCP）を策定している。</p>

III-2 福祉サービスの質の確保

III-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。

<p>III-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。</p>	a	<p>標準的なサービス提供方法を担保するため、「みらいステップグループ業務の流れ」や各種マニュアル等を整備している。 当該「流れ」では、出勤・退勤時の留意事項、早番の業務内容、合同保育の流れと留意事項、朝の会の内容と流れ、帰りの会の内容と流れ、おやつと給食時の流れと留意事項、清掃方法（洗濯に関するものを含む）と手順、遅番の業務内容、各種記録の方法や留意事項、製作物に関する留意事項、日常保育に関する留意事項、散歩に関する留意事項、園庭遊びに関する留意事項等を明示している。</p>
<p>III-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p>	a	<p>定期的に開催する「役職者会議」や「職員会議」、「クラス会議」、「給食会議」等において、業務内容や手順等の見直しや、改善の可否等を検討している。保護者からの要望や職員からの意見等は、主任保育士と園長に随時報告する仕組みになっている（内容に応じて、口頭による場合と書面による場合がある）。また、年度末に業務内容や手順等の見直しを検討する取り組みを組織的に行っている。</p>
III-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
<p>III-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画（個別支援計画）を適切に策定している。</p>	a	<p>個別面談等を通じて、子どもの発達や家庭環境等に関する情報収集（アセスメントを含む）を行っている（個別の相談対応等において把握した情報や面談の内容等は、所定の用紙に記録している）。 また、アセスメントに基づき、年齢に応じた年間指導計画を策定すると共に、年間指導計画と整合性を確保した月間指導計画を策定している（0歳児、1歳児、2歳児は成長に応じて個別に作成し、3～5歳児はクラスごとに作成している）。加えて、月間指導計画に基づく週間指導計画をクラスごとに策定している。 さらに、様子の気になる子どもについては、個別の計画（個別対応指導計画）を策定している。</p>
<p>III-2-(2)-② 定期的に福祉サービス実施計画（個別支援計画）の評価・見直しを行っている。</p>	a	<p>年間指導計画は、四半期ごと（4月～6月までの計画を7月に、7月～9月までの計画を10月に、10月から12月までの計画を1月に、1月から3月までの計画を3月に）に評価している。また、必要に応じた見直しを行い、見直した内容を次の期に反映させる取り組みも行っている。 月間指導計画は月末に、週間指導計画は週末に、それぞれ担任が評価と見直しを行っている。月間指導計画と週間指導計画については、必要に応じて園長や主任保育士が助言や指導を行っている。</p>
III-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
<p>III-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況（個別支援計画）の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p>	a	<p>業務効率向上のため、各種計画や記録をデータ化している（システムを導入し、入力や情報共有のICT化を図っている）。必要に応じて、システムの操作や活用に関する支援も行っている。 0歳、1歳、2歳児については、計画や記録を個別に行っている。3歳、4歳、5歳児については、計画や記録を包括的に行っているが、必要に応じて個別でも行っている。 「職員会議」や「クラス会議」を通じて、計画や記録についての共通認識を図っている。</p>
<p>III-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。</p>	a	<p>各種計画や記録（データ）を管理するため、入力や閲覧時にIDとPWによるアクセス制限を行っている。出力したもので個人情報が含まれるものは、施錠可能なキャビネットに保管している。 また、「個人情報の取り扱い」（個人情報保護方針）を策定し、個人情報保護法等の遵守、個人情報の定義、情報の収集と利用目的、情報の管理、情報の提供（一定の場合を除き、同意を得ずに提供しない）、cookieの取り扱い、情報の照会・編集・削除、取り組み改善等に関することを定めている。</p>

A 個別評価基準

A-1 保育内容

	第三者評価結果	コメント
A-1-(1) 全体的な計画の作成	a	<p>保育理念や保育方針、保育目標に基づき、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を策定している。</p> <p>当該計画では、“社会的責任”について、延長保育や休日保育等のニーズに対応することや、乳児を含む3歳未満児の受け入れを促進することを明示している。また、“人権尊重”については、子どもを一人の人として尊重し、自己肯定感を持つように努めることを、“説明責任”については、地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に保育内容を適切に説明することを、“情報保護”については、正当な理由なく子どもや保護者の情報を漏らさないための研修を行うことを、“苦情処理・解決”については、苦情対応窓口、担当者、苦情解決責任者、第三者委員を配置し、苦情解決体制の周知を図ることを、それぞれ明示している。さらに、年齢ごとの養護（生命の維持、情緒の安定）、年齢ごとの教育（健康、人間関係、環境、言語、表現）、年齢ごとの食育（食を営む力の基礎）、健康管理、環境・衛生管理、安全対策と事故防止、保護者への支援、地域等への支援、地域行事への参加、研修計画、小学校との連携、自己評価等の取り組み計画を明示している。</p>
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	a	<p>季節に応じて保育室の環境を変える取り組みをクラスごとに行っている。春は、子どもにより生活リズムが異なる場合があるため、子どものリズムで寝る、遊ぶ等を尊重した対応を行っている。このため、保育室に寝るスペースと遊ぶスペースをそれぞれ確保している。夏は、プール遊びを行うため、保育室に着替えるスペースと着替えの順番を待つスペースを設けている。秋は、運動会の練習を行う時間が多くなるため、保育室にマット運動、ダンス等、それぞれを練習するスペースを設けている。冬は、「生活発表会」の練習に合わせて、保育室に演目の練習をするスペースを設けている。また、1年を通じて子どもが自由に絵本や紙芝居、おもちゃを選べる環境を整備している。</p> <p>利用者調査における「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっていますか」について、90.0%が「はい」、5.0%が「どちらともいえない」、2.5%が「いいえ」、2.5%が「わからない」と回答している。</p>
A-1-(2)-② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	<p>子ども一人ひとりの気持ちに寄り添うため、また、子ども一人ひとりに対する受容を行うため、基準を上回る職員配置を行っている（常勤換算方法で127%の職員を配置している）。様子の気になる子どもに対しては、当該子どもの年齢や発達の状況に応じた対応を行っている。「クラス会議」や「職員会議」において、様子の気になる子どもに対する保育内容や対応方法等に関する検討を行っている。</p> <p>利用者調査における「担当保育士は、お子さんの良いところや個性を認めていますか」について、97.5%が「はい」、2.5%が「わからない」と回答している。また、「先生方が子どもたち一人ひとりをよく見てくれ、相談しやすい雰囲気を出してくれています」「先生方が親身で、子ども一人ひとりに丁寧に対応してくださっていると感じます」「カリキュラムを組んで学ばせてもらっていますが、個性もしっかりと尊重してくれます」「園児一人ひとりを平等に見てくれていると思います」「個を大切にしています」「先生が子どもに寄り添って保育をしてくれていると思います」等の意見もある。</p>
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身に付けることができる環境の整備、援助を行っている。	a	<p>年間指導計画に基づき、0歳児については、保育園で安心して過ごせるようにすることに主眼を置いている。また、1歳児については、食具（スプーンやフォーク）を適切に（段階的に）使うことができるようになりますことに主眼を置いている。2歳児については、排泄や着脱の自立に向けた段階的な支援に主眼を置いている。3~5歳児については、外出から戻った際に手洗いと歎をする、着替える等の習慣づけを行う支援を行っている。更に、散歩を通じて実践的に交通ルールを守れるようにする支援も行っている。</p> <p>利用者調査における「昼寝や休息は、お子さんの状況に応じた対応がされていると思いますか」について、92.5%が「はい」、2.5%が「どちらともいえない」、5.0%が「わからない」と回答している。</p> <p>「トイレトレーニングについては、家庭と協力しながらお子さんの成長に合わせて柔軟に取り組んでいますか」については、75.0%が「はい」、7.5%が「どちらともいえない」、17.5%が「わからない」と回答している。また、「生活習慣の指導がしっかりとしており、丁寧に教えていただけて助かっています」「園児の生活習慣を整えることを大切にしてくれます」等の意見がある。</p>

A－1－(2)－④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a 知育、徳育、体育、食育、才育に注力している（特色としている）。 利用者調査における「園の遊びに、お子さんは満足していると思いますか」について、72.5%が「はい」、20.0%が「どちらともいえない」、7.5%が「いいえ」と回答している。「自然に触れたり地域に関わるなどの散歩や屋外活動は、十分に行われていると思いますか」については、80.0%が「はい」、7.5%が「どちらともいえない」、5.0%が「いいえ」、7.5%が「わからない」と回答している。また、「多言語教育に力を入れています」「法人としても掲げている内容ではありますが、外国語や運動に力を入れています」「教育面を重視し、遊びの中にも学びを入れており、日々の活動を通じて子供の成長を感じられます」「サッカーや英語、中国語のレッスンを積極的に行っています」「知育に力を入れていて、子どもの自主性を育んでくれます」「外部講師を呼んで、外国語や体操のレッスンをしてくれます」「色々な遊びや経験をさせてくれます」等の意見がある。
A－1－(2)－⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a 0歳児の養護については、①一人ひとりの生活リズムが整うように配慮する、②食欲・睡眠・排泄の生理的欲求を満たし、生命の保持と安定を図る、③発達過程を的確に把握し、応答的な触れ合いや言葉かけを行う、④情緒の安定を図る、としている。 0歳児の教育については、①食事・睡眠・排泄等の欲求が満たされ、一人ひとりの生活リズムで心地よく過ごす、②探索活動が活発になる、③安心できる環境の下で感覚の働きを豊かにする、④啞語や指差し等、子どもからの表情を優しく受け止める、としている。 また、乳幼児突然死症候群による事故を防止するため、睡眠中の目視を5分間隔で行っている。 自己評価における当該項目については、92.3%が“a”、7.7%が“b”と回答している。
A－1－(2)－⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a 1歳児の養護については、①特定の保育士との信頼関係が深まり、愛着関係が育まれるように接する、②スキンシップにより、保育士との関わりの心地よさや安心感を得られるように接する、としている。 1歳児の教育については、①身の回りの簡単なことを自分でしようとする気持ちが芽生える、②保育士や友だちに関心を持ち、真似をしたり自ら関わろうとする、③好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々な遊びを楽しむ、④話しかけや、やり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする、⑤様々な感覚を味わい、五感を刺激し、感性を豊かにする、としている。 2歳児の養護については、①生活や遊びの中で、自我が育つような関わりを持つ、②子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築く、としている。 2歳児の教育については、①生活の中で援助してもらいながら自分でしようとする、②生活や遊びの中で、順番を待つ等の決まりがあることを知る、③自然と触れ合う中で、好奇心や探求心が生まれる、④生活や遊びの中で、簡単な言葉のやり取りを楽しむ、⑤保育士や友だちと遊ぶ中で、自分なりのイメージを膨らませて楽しむ等、としている。 自己評価における当該項目については、76.9%が“a”、23.1%が“b”と回答している。

A－1－（2）－⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>3歳児の養護については、①基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する、②友だちと簡単なルールのある遊びをする中でルールが守れる、としている。</p> <p>3歳児の教育については、①身の回りを清潔にし、生活に必要な活動を自分でしようとする、②身近な動植物に親しみを持ち、世話をして生命の尊さに気づく、③保育者や友だちとの会話を楽しみ、相手に伝わるよう話す工夫をする、④音楽に親しみ、友だちと歌ったり合奏したりして一つのものを作り上げる楽しさを味わう、としている。</p> <p>4歳児の養護については、①自分の体に関心を持ち、異常を感じたら自分から保育士に知らせる、②決まり事を守る、としている。</p> <p>4歳児の教育については、①身近なものや遊具に興味を持ち、考えたり試したりして遊ぶ、②イメージを広げ、様々な方法で表現する等、としている。</p> <p>5歳児の養護については、①危険なものや場所、行動を知り、気を付けて活動する、②遊びや行動を通して、友だちを応援したり、力を合わせることの大切さを知る、としている。</p> <p>5歳児の教育については、①生活や遊びの中で、簡単な標識や文字に関心を持つ、②人の話を聞いたり身近な文字に触れたりして、言葉への興味を広げる、③自分のイメージを動きや言葉で表現して遊ぶ楽しさを味わう等、としている。</p> <p>自己評価における当該項目については、76.9%が“a”、23.1%が“b”と回答している。</p>
A－1－（2）－⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>発達の気になる子どもについては、個別の対応（受容や見守り、声掛け等）を行っている。また、必要に応じて、さいたま市（保育コーディネーター）、児童発達支援センターとの連携を図っている。職員が連携を図り、発達が気になる子どもに関する情報の共有と、対応方の検討等を継続して行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、69.2%が“a”、30.8%が“b”と回答している。</p>
A－1－（2）－⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>7：00～9：00までと16：00～19：00までは、異なる年齢の子どもたちが一緒に過ごす環境の中で対応を行っている。保育で過ごす時間が長時間に渡ることに配慮して、延長保育の時間に限って使うことができるおもちゃや絵本等を用意している。延長保育を通じて、クラスの友だちは異なる友だちをつくることや、異年齢の友だちと交流する中で新しい遊びや遊び方を発見すること、担任以外の職員と一緒に過ごすことで子どもの楽しみが増えること等を支援し、延長保育が楽しみになるようにする取り組みを行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、76.9%が“a”、23.1%が“b”と回答している。</p>
A－1－（2）－⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	<p>5歳児に対しては、小学校（特別支援学校を含む）生活への円滑な移行のために必要な支援を行っている（5歳児は、1月ごろから段階的に午睡をしない対応を行っている）。また、小学校の運動会に参加する取り組みや、小学校を見学する取り組み（3月ごろ実施）、小学生と交流する取り組み、小学校への情報提供、小学校との連携を図る取り組み等を行っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、76.9%が“a”、23.1%が“b”と回答している。</p>
A－1－（3） 健康管理		<p>A－1－（3）－① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p> <p>①子どもが自分の健康に関心を持ち、病気の予防等必要な活動を行う、②安心・安全な環境の下、色々な遊びを通して身体作りをする、③感染症に伴う出停・予防接種やアレルギー等について保護者と連携する等を目的とした年間保健計画を策定している。当該計画では、2か月ごとに目標、活動内容、留意点等を明示している。</p> <p>また、子どもの体調管理や感染症予防等のため、季節ごとに「ほけんだより」を保護者に配布している。</p> <p>利用者調査における「遊びを通じてお子さんの健康づくりへの取り組みがなされていると思いますか」について、87.5%が「はい」、7.5%が「どちらともいえない」、2.5%が「いいえ」、2.5%が「わからない」と回答している。「お子さんの体調について、常に気配りされていると思いますか」については、100%が「はい」と回答している。</p>

A－1－(3)－② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	定期的な検診機会を設けると共に、検診の結果を保護者にも提供している。栄養状態、眼、耳、鼻、咽頭、皮膚、口腔、心臓等に関する検診結果、体重、身長、胸囲等の計測結果等を把握し、保護者にも提供している。保護者からも、家庭における健康状態や様子等に関する情報提供を受けている。また、検診結果や子どもの状態等に応じて、医師や歯科医師の指示を踏まえた対応を保護者と連携して行っている。
A－1－(3)－③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	食物アレルギーやアナフィラキシーに関する生活管理指導表を作成し、アレルギーやアナフィラキシーショックに関する反応の有無や、病型、原因物質、診断根拠、処方薬、生活上の留意点、緊急連絡先（医師及び医療機関）等を把握すると共に、必要な対応（アレルギーボードへの記入、個別に食事やおやつを受け渡す、除去食や代替食の提供、アレルギープレートの確認等）を行っている。 また、医師の指導に基づき、アナフィラキシーショックへの対応方法（アドレナリンの投与方法等）に関する研修を定期的に行っている。 利用者調査における「アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮は、十分なされていると思いますか」について、72.5%が「はい」、27.5%が「わからない」と回答している。
A－1－(4) 食事		
A－1－(4)－① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	年齢ごとに食育計画を策定し、食育に関する目標を設定している。利用者調査における「給食のメニューは充実していると思いますか」について、95.0%が「はい」、2.5%が「どちらともいえない」、2.5%が「わからない」と回答している。「お子さんは給食を楽しんでいると思いますか」については、85.0%が「はい」、12.5%が「どちらともいえない」、2.5%が「わからない」と回答している。
A－1－(4)－② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	食材の衛生的な管理や調理者の衛生管理、調理物品の衛生管理、調理過程の管理等、安全な食事を提供するために必要な取り組みを行っている。毎月開催する「食育会議」や「給食会議」において、子どもが安心して美味しく食べることができる献立の検討を重ねている。また、必要に応じてアレルギー食材を除去する対応を個別に行っている。 利用者調査における「一人ひとり適した量やその日の体調に合わせた調理方法等の配慮がなされていると思いますか」について、72.5%が「はい」、12.5%が「どちらともいえない」、2.5%が「いいえ」、12.5%が「わからない」と回答している。「食事への配慮が必要な場合（離乳食、アレルギー等）、保護者との十分な連携がとれていると思いますか」については、80.0%が「はい」、2.5%が「どちらともいえない」、17.5%が「わからない」と回答している。

A-2 子育て支援

第三者評価結果		コメント
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	<p>定期的な個別面談や登降園時のコミュニケーションを通じて、家庭での様子に関する情報収集や情報提供を行っている。また、希望に応じて、個別の相談対応等も随時行っている。</p> <p>利用者調査における「園だよりや掲示、連絡帳などにより、園の様子や行事について十分な提供がありますか」について、77.5%が「はい」、17.5%が「どちらともいえない」、5.0%が「いいえ」と回答している。「登園時やお迎え時に、お子さんの様子についての確認・説明がありますか」については、95.0%が「はい」、5.0%が「どちらともいえない」と回答している。</p>
A-2-(2) 保護者等の支援		
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	<p>連絡帳や登降園際の情報交換等を通じて、保護者が安心して子育てができるようにする支援を行っている。また、必要に応じて、個別の相談等への対応も行っている。</p> <p>利用者調査の回答において、「おむつ、おしりふきのサブスク導入により、保護者の持ち物の負担が少ないです」「保護者の負担がほとんどありません」「おむつのサブスクや布団のリースなど、負担軽減してくれるよう配慮されています」「色々と臨機応変に対応してくれます」「アプリなどを取り入れて、保護者の負担を軽減してくれています」等の意見がある。</p>
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	<p>園内研修において、虐待の早期発見や早期対応、虐待の防止等に関する理解を深める取り組みを行っている。また、登園時に子どもの様子や表情に気を配る取り組みや、着脱時に身体の状態を観察する取り組み等を行っている。子育て等に悩みを抱える保護者が気軽に相談できる体制整備も行っている。「クラス会議」や「職員会議」等において、子どもや保護者の様子に関する情報共有を図っている。虐待の早期発見や早期対応、虐待防止等のための外部研修を受講する取り組みも行っている。</p>

A-3 保育の質の向上

第三者評価結果		コメント
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	<p>「みらいステップグループ自己評価」や「能力行動評価シート」に基づく評価を行い、評価結果に基づく改善を行っている。また、マネジメント（主任）、乳児保育、幼児保育、紙芝居、運動遊び、造形遊び、自然体験、音楽遊び、発達障害、危機管理、乳幼児突然死（SIDS）、虐待防止、食物アレルギー、事故予防、保育指針、感染症、嘔吐処理、救急対応、コミュニケーション力、保護者対応、自己啓発、個人情報取り扱い等に関する研修等（外部を含む）を通じて専門性の向上を図っている。</p> <p>自己評価における当該項目については、84.6%が“a”、15.4%が“b”と回答している。</p>